知的財産関連の動向

最近のWIPOの動き（41）

世界知的所有権機関（WIPO）日本事務所 *

1．はじめに

本稿では，WIPOの最近の動きとして，以下の2つを紹介する。

・WIPO加盟国総会の概要
・WIPOグローバル・アワード2024の表彰式開催

2．WIPO加盟国総会の概要

2024年7月9日から17日，第65回WIPO加盟国総会（以下，総会）が開催された。本総会には，WIPOの加盟国から20名近くの閣僚級を含む約1,400人もの代表団が参加したが，これは過去最高の参加者数であった。

総会初日の冒頭，WIPOタン事務局長は，「グローバルなIPエコシステムの変革の成果が現れ始めており，これはグローバルなIP基準を形作り，リーダーの注目を集めるだけではなく，より多くの人々の生活に影響を与えるものです」，そして，「WIPOコミュニティ全体として，適切な実践，規範，基準，政策，およびプロジェクトを導入し続け，すべてのイノベーターやクリエイターの旅の一部としてIPを位置づけ，世界中のすべての国の成長と発展の触媒となるようにしましょう」と述べた。

今回の総会は，2024年5月に開催された外交会議に続いて開催され，WIPOタン事務局長は，「この新しい，第27番目のWIPO条約である，「知的財産，遺伝資源および関連する伝統的知識に関する条約」は，感情的で意見の対立が激しい分野であっても，協力，現実主義，透明性，包括性の精神で交渉に臨めば，グローバルなコミュニティが合意に達することが可能であることを強く示しました。この結果は，先住民および地域コミュニティ，そしてより包括的なIPエコシステムにとっての勝利であるだけでなく，多国間交渉にとっても勝利でした」と述べ，「加盟国に対し，11月に予定されている新しい意匠法条約の交渉だけでなく，WIPOの業務を世界中で強化するという重要な任務を続ける中でも，一丸となって取り組む精神を続けるよう呼びかけます」とのリーダーシップの意志を示した。

また，同じく総会初日には，日本国特許庁（JPO）の小野洋太長官による一般演説が行われ，日本が30年以上拠出している任意拠出金を通じた途上国支援の取組に関し，本年，途上国の中小企業・スタートアップ・起業家への支援への協力をJPOとWIPOが連携して強化することに合意したことに言及した。

さらに，SDGsの達成に知財が貢献することが重要であるとの考えの下，JPOが，WIPOや世界中の関係者と連携し，WIPO GREENのマッチングの成功事例増加に貢献していることについて述べた。加えて，本年11月に開催予定の意匠法条約（DLT）の外交会議について，JPOとして積極的

* WIPOの外部事務所の1つ。東京・霞が関に位置する。詳しくは，WIPO日本事務所のウェブページを参照されたい：
https://www.wipo.int/about-wipo/ja/offices/japan/
また，WIPOやWIPO日本事務所の主要な活動については，ニュースレター（四季報）にて定期配信中：
https://www3.wipo.int/newsletters/ja/#wipo_japan

に参加していく旨，2025 年に開催される大阪・関西万博において，WIPO と連携し，SDGs 達成に向けて，知財の重要性やより一層の活用推進を図るためのアイデア等について情報発信を予定している旨表明した。また，翌日に行われた日本知的財産協会（JIPA）山中昭利理事長による一般演説では，JIPA は，知財を議論し連携を積極的に強化するためのプラットフォームになるという WIPO のビションを共有しており，JIPA が引き続き WIPO GREEN を含めたグローバルな連携を強化して持続可能な技術ソリューションを世の中に広めていくことに取り組むことを表明した。

本総会では，加盟国からの一般演説に続き，WIPO 各委員会からの報告事項，国際出願制度等について，加盟国間で活発な議論が行われた。また，WIPO 総会の開催期間に合わせ，数多くのサイドイベントが開催され，本稿後述の WIPO グローバル・アワードの授賞式の他，特定の国・地域が



WIPO 加盟国総会　会場の様子



特許庁小野長官と
WIPO タン事務局長によるバイ会談

WIPO と共同で行う各種イベント等，幅広いトピックに関するイベントが開催された。また，総会のマージンにおいて，JPO 小野長官と WIPO タン事務局長との間でバイ会談も実施され，JPO と WIPO が引き続き連携して各種施策を推進していく旨が確認された。

WIPO 総会の議論の様子や，一部のサイドイベントの様子は WIPO ウェブキャストでアーカイブ動画を視聴いただけるので，ご関心があればぜひご覧いただきたい。

3．WIPO グローバル・アワード 2024 の表彰式開催

WIPO グローバル・アワードは，知的財産を活用して事業目標を達成し，収益を生み出し，雇用を創出し，地域や世界の課題に取り組み，また地域社会や国の発展に貢献する発明者やクリエイター，起業家たちを表彰し，知的財産・無形資産の事業化を推進することを目的としたものです。2022 年の設立以来，本年は 3 回目の開催となり，2024 年 1 月 15 日から 3 月 31 日までの応募期間の間に，107 か国から 660 件以上の応募があった。その後，WIPO 事務局にて，最終候補 25 社を選出していたところ，著名な専門家で構成される独立した審査委員会により，知的財産に支えられたイノベーションや創造性が社会にもたらすインパクトを重視する本アワードのコアバリューに沿って，今年は新たに，持続可能な開発目標（SDGs）への貢献も審査基準に加えて受賞者が決定された。本年の総会のサイドイベントとして表彰式が開催され，受賞企業 9 社が発表された。表彰式において，タン事務局長は「世界的に見て，中小企業は全ビジネスの 90% 以上を占めていますが，その多くはまだ IP の力を完全には活用していません。しかし，この賞はそれを活用している企業を称え，IP がビジネスの成長だけでなく世界にポジティブな変化をもたらすことができることを示しています。今年の受賞者の皆様にお祝いを申し上げるとともに，他の中小企業に IP の力を示してくれたことに感謝し，今後の旅路に幸運を祈

ります。」と述べ，受賞者に賞を授与した。

今年の受賞者は，アルゼンチン，中国，ケニア，大韓民国，クウェート，シンガポール，スイス，タイ，トルコから選ばれた。



WIPO グローバル・アワード 2024 の表彰式の様子

以下，受賞した 9 社と受賞した製品またはサービスを紹介する。

・AETECH ― 大韓民国
AI 深層学習技術を使用してリサイクル可能な廃棄物を分類するロボット。
・Farmer Lifeline Technologies ― ケニア
機械学習と AI アルゴリズムを使用して作物の害虫や病原体を検出する太陽光発電農業ロボット。
・Healinno Tech ― 中国
良性前立腺肥大（BPH）治療のための精密で適応的な水噴射手術ロボット。
・Laboratorios Química Luar ― アルゼンチン
嚢胞性線維症のような複雑で対応が難しい状態に対する吸入およびネブライザー用イブプロフェン製剤。
・Meticuly ― タイ
AI 搭載 CT スキャンを利用した，各患者に合わせた 3D プリント骨代替品。
・PONS Teknoloji ― トルコ
病院外でエキスパートレベルのスキャンを提供するポータブル超音波画像技術。
・Qnami ― スイス
合成ダイヤモンドベースの量子センサーを使用してチップや電子部品の磁気および電子特性を測定する画像技術。
・ScansX ― クウェート
脳腫瘍の初期兆候を検出するために近赤外分光法を使用するハンドヘルド AI 搭載脳損傷スキャナー。
・Vivo Surgical ― シンガポール
高精度外科用ツールに変換するロボット主流の医療機器。

WIPO グローバル・アワードの受賞企業は，単に表彰されるだけではなく，IP をビジネス成長のために活用するための個別メンタープログラムを受けるとともに，資金調達およびビジネスチャンスへのアクセスを容易にするための独占的なサポートとスポンサーシップを受けることができるものである。

本年は日本からの受賞者は出なかったが，本アワードは今後も継続して開催予定であり，開催にあたって WIPO 日本事務所からも応募内容等について日本語で情報発信を行う予定である。ご注目いただき，ぜひ，多くの日本企業の方にもご応募をいただきたい。

（原稿受領日　2024 年 8 月 2 日）